

に至った。法華経は西域、中国、朝鮮、日本などの各地の文化に大きな影響を及ぼした。同経をめぐり現在に至るまで様々な研究が試みられてきたが、整備されたインデックスはまだ存在していない。このため本研究に於てはいわば副産物としてではあるが、索引の刊行を企図した。現在のところ作業は概ね完了し、原稿の形になっている。

3に就ては作成したデータベースを基に文献情報に関する簡単な計量分析を行った。その結果、文長、語長、文の数などの文に関する情報に基づき、いくつかの貴重な情報が得られた。しかし、今回作成したデータベースでは文法情報が動詞の判別等、未だ低い段階にとどまったため、文法情報に基づく分析に着手するに至らなかったことが残念である。今後の課題として、可能であれば試みなければならない問題である。

本研究はおそらく世界初の梵文文献を対象とする研究である。そのため、まだまだ議論されねばならない課題は多いが、所期の研究目的は達成されたと言える。

3-共研-83

源氏物語の計量国語学的分析

統計数理研究所 村上 征勝

源氏物語は平安中期に紫式部の手によって成立したとされる。しかしその作者をめぐっては多くの疑義があり、本研究は3年の計画でこの疑義に関するアプローチを試み、また平安期の日本語の計量的な特色を把握すべく研究を開始した。

さて、3年計画の初年度にあたる本年は、主に

- 1) 底本の選定、参考図書の整備
- 2) 原文の入力
- 3) 入力した部分の校正
- 4) 分ち書き

などの作業を行った。

1)については資料の作成と共に、将来解析を行うにあたり適切なデータが得られるか否かなどの観点から批判を行った。

2), 3)については富士電機 XP-50S を用い、原文を読み込み、更に人力による校正を行い、データを整備した。

4)については原則として手作業で行わざるを得ないと考えていたが、部分的にはあるが、分ち書きの自動処理プログラムが実用に堪えるレベルに至ったので、これを使用することにより大幅なスピードアップが可能となり、当初の予想以上に進歩した。

以上の作業と並行して、文法情報の作成、処理プログラムの作成が開始された。本研究では日蓮遺文の計量的研究に於て培われたノウハウを基に、文法情報を作成した。

3-共会-1

粒子発生過程の統計現象

信州大学 教養部 美谷島 実

標記研究会を10月28, 29日、文部省統計数理研究所で開催した。当研究会の当初の目的は“高エネルギー素粒子、原子核反応における高多重度現象の統計を如何に取扱うかを議論するこ